令和5(2023)年度　学校経営計画　各教科重点目標と達成方法

国語科　2023年度重点目標		
項目1	目標	① 各学年または到達段階に応じた国語の力を生徒に身につけさせる。
	達成方法	・漢字テストや単語テスト、文法テストなどの小テストを定期的に実践する。また、読書や副教材、プリント等を用いた課題（宿題）を理解度に応じて提供し、活用することで、家庭学習においても自発的に国語の学習に取り組めるようにする。
		・中学段階では「総合」の時間や、読書指導、古典作品（百人一首）の暗唱などの活動を通じて文章や言葉に常に関心を持たせていく。高校段階では、小論文指導を通して文章の表現力を身につける。
		・中学段階から国語に対する関心興味を持ち、論理的に物事を考え、理解するための言葉や文章を身につけ、基礎力の充実を図る。 高校段階では、現代文を通じて現代のさまざまな問題に対して多角的な見方や考え方があることを知り、 広い視野のもと、物事を考えられるようにするとともに、自分の考えを筋道立てて表現できるようにする。
		・古典を通じて歴史や文化の特色を理解するとともに、文法や句法の分析を通じて読解を深め、問題を解決できる力を養成する。
項目2	目標	② 生徒が積極的に国語の学習に取り組める授業を実践する。
	達成方法	・授業では、音読の機会、発問の機会、発表や発信の機会をできるだけ多く増やし、受け身ではなく主体的に授業に参加させていく。
		・多種多様な文章を多く取り上げて扱うことで、読解力や表現力の基本となる多くの語彙やさまざまなものの考え方や感じ方に触れさせ、習得させていく。
		・妻中サクセス（学習の身体化・高速化）と、「スタデイサプリ」などの自習教材アプリを活用し、能動的な学習を習慣化させる。
		・特に中学では学年内の他教科と連携して、課題量を生徒の負担になりすぎないよう勘案し、生徒が取り組みやすい環境をつくる。
項目3	目標	③ ICTの活用および音声教材、映像教材を取り入れた五感を刺激する授業を実践する。
	達成方法	・教員間で密に連携しながら授業研究を深めるとともに、授業見学なども積極的に行う。また、電子黒板・manaba・LOILOノート・スタディサプリ等のICTの積極的な活用を試みながら、生徒同士の意見や発言のアウトプットを促す。
項目4	目標	④ 生徒の進路実現のために、個別に親身になって生徒に対応する。
	達成方法	・定期考査や小テストにおいて成績が伸び悩んでいる生徒には放課後や長期休業中に課題や補習を課して伸長をはかるとともに、生徒のニーズに応じ、授業や放課後講習などで積極的に演習（入試問題演習）を実践して、能力を伸ばしていく。

地歴公民科　2023年度重点目標		
項目1	目標	探究型授業の実践とそのノウハウの蓄積・共有
	達成方法	探究型授業を通じて身に着ける力を各科目で検討・設定し、教科内で共有する。
		学年・科目を問わず参加型授業を実施し、生徒が自主的に取り組むシステムを構築する。
		教科内で実施した参加型授業の取り組みやその成果について随時共有し、教科全体での向上を図る。
項目2	目標	新カリキュラムへにおける実践・研究
	達成方法	新カリキュラムへの移行が完了するため、新たなカリキュラムにおける6年間の取り組みを検討する。
		新たな科目による入試問題の対策、学習方法を検討する。
項目3	目標	教科内における評価の整合性を確立するためのルーブリックの作成
	達成方法	社会科として身に着けたい力を達成できる達成のためのルーブリックを作成する。
		各科目でルーブリックに基づいた論述問題を出題し、教科内で共有する。

数学科　2023年度重点目標		
項目1	目標	授業の質の向上
	達成方法	①反転授業により演習量を増やすと共に、生徒の主体的かつ協働的な活動を促す。
		②研究授業による振り返りを行う。また積極的な授業見学を行い、意見交換をし、科としてのスキルアップを図る。
項目2	目標	ICTの活用の推進
	達成方法	①タブレットを使った授業の実践。スタディサプリを用いて予習など自学自習を促したり、自分の作った解答を交換し合い、自らの学習姿勢を整える。
		②ロイロノートやZoomを活用し、自宅からの質問にも対応し、自宅学習のサポートを行う。
		③模試や、大学入試問題の解説をビデオに撮り、インターネット上でいつでも自学自習できる環境を整える。
項目3	目標	基礎学力の定着および応用力・探究力の育成
	達成方法	①MMTや小テスト等のこまめな実施。合格点を設け、合格するまで丁寧に指導していく。
		②外部模試を検証し、弱点を随時把握し、講習等を用いて補強していく。
		③参考書や模試や定期考査などを講習に活用し、「テスト→振り返り→類題」などさまざまな方法で応用力育成を目指す。
		④自らテーマを決め、答えのない課題に対して周囲を納得へと導く「納得解」を探究しアウトプットできる力を養う。
		⑤中学3年生、高校1年生は数学検定を全員受検。他学年においても推奨していく。
項目4	目標	変わりゆく大学入試への適切な対応
	達成方法	①大学の入試問題を解き、教科で研究し情報共有する。また、その入試問題の特徴をシートにまとめ、生徒へ情報還元する。
		②全教員で各定期テストを研究し、変わりゆく大学入試に適しているかどうかなど、質の向上を行う。
		③研修などに参加し、教科で情報共有する。

理科　2023年度重点目標		
項目1	目標	①生徒が理科に興味関心を抱き、主体的に学習するような授業を計画し、基礎学力の定着および成績向上をはかる。
		②高校の生徒が大学受験に対応できるような環境を整える。
	達成方法	①授業中は、生徒が主体的に学習活動を行えるように、実験や実習を多く取り入れる。
		実験や観察が困難な単元では、講義型の授業だけにならないように、書く・考える・話し合うなどの活動を多く取り入れる。
		授業内に小テストや振り返りを行うことにより、生徒自身が知識の定着を図れるような授業展開をする。
		②知識の定着とともに、問題演習を行うことにより、より発展的な知識理解ができるような授業展開および考査を実施する。
		科目ごとにロイロで質問箱を作成し、全教員が高3生徒の質問に対応できるようにする。
項目2	目標	中1ポスターセッション、高2自由研究など各学年で探究的な活動を計画・実践する。外部プログラムへの参加も推進する。
	達成方法	①学年や科目の実態に合わせ、自ら課題を探究する活動を取り入れ、活動内容を教員間で共有する。
		②高2の研究論文は、教科の全教員で添削を行い、大学での学びにつながる探究心を刺激する。
項目3	目標	学年・クラス・コースごとに目的をもった教科指導を行う。
	達成方法	①高校3年生は、受験生指導として幅広い成績層の中で志望校別・レベル別に対応する。
		②高校2年生は、3年生から受験演習にスムーズに入れるように基礎学力の定着を図り、演習問題への着手を目指す。
		③高校1年生以下は、興味・関心を引き出すため、実験や視覚に訴える授業展開を意識する。また、基礎基本の定着を、問題演習や小テストを通して徹底する。
		④理科としての学力だけではなく、環境問題や最新技術なども視野に入れながら授業展開を行う。

保健体育科　2023年度重点目標		
項目1	目標	チャイム開始，終了の徹底
	達成方法	着替えを早くして、行動を素早くする。
		授業時間を意識して、集中して取り組む。
項目2	目標	授業の振り返り
	達成方法	本時の目標を明確に伝え、最後にできたかを確認する。
		これからやることは、「振り返り」であることを意識させ、取り組む。
項目3	目標	発表の機会を増やす
	達成方法	授業時に、「踊り合い」「教え合い」を積極的に取り入れる。
		「踊り合い」「教え合い」は、発表であることを理解させる。

芸術科　2023年度重点目標		
項目1	目標	①個々の状況に合わせた教育を心掛け、生活習慣の基礎を身に付け、生徒本人の主体的な取り組みを促す。
		②芸術活動方法、技能の解説や研究にタブレットなどのICTを使い、より深くわかりやすい授業を展開していく。
	達成方法	①生徒間・生徒教員間の自由な意見交換を促すと共に、主体的な芸術の構築に努め、より高いレベルの演奏・作品を目指す。
		②授業の内容に応じてタブレットなどのICTを使って、課題の理解を深めさせる。
項目2	目標	芸術活動を通じて、目標に向かって諦めずに努力する姿勢を養い、達成感を通して豊かな心を養う。
	達成方法	①挨拶、姿勢、授業態度に留意し、芸術に取り組む基本的心構えを習得させる。
		②音楽・美術・書道それぞれの科目の中で課題に真摯に取り組み、目標に向かって最後まで諦めずに努力する姿勢を養う。
		③高い目標を設定し、目標を達成するために仲間と協力し、その過程で生じる様々な問題を自ら解決していく力を育てる。
項目3	目標	芸術の持つ力について探究し、生涯にわたって芸術を愛好する心情を育てる。
	達成方法	芸術が身近にある生活が自分と周囲の人々の心を豊かにすると共に、生きる力を与えることができることを実例を集めて考えさせる。

外国語科　2023年度重点目標		
項目1 （授業）	目標	①言葉の技能に焦点を当てた授業の充実を目指す。また、授業を通じて生徒の探究的な姿勢を育成する。
		②英語やフランス語などの外国語を積極的に使ってコミュニケーションをはかるスキルとマインドセットを養う。
		③外国語学習のあらゆる要素が最終的に言葉の持つ機能の習得に繋がるということを常に生徒と共に確認する。
	達成方法	①生徒による外国語での多様な言語活動を授業に取り入れる。
		②中学生はオンライン英会話を家庭で積極的に行うことで、英語での実践的な会話力を養う。高校生はエッセイライティングや担当教員とのスピーキングによるコミュニケーションを促進する。
		③アクティブラーニングを意識し、ロイロノート等のツールを必要に応じて活用しながら生徒の能動的な授業参加を促す。
		④グループワークや英語プレゼンテーションなどの活動を授業に取り入れる。
		⑤プレゼンテーションコンテストの指導等を通して、生徒が自分の意見を英語で効果的に発表し、英語でのやりとりをできるようにする。
		⑥授業の中で探究的学習の要素（調べ、発表し、深める）を可能な限り取り入れる。
項目2 （検定、進路）	目標	①所属学年問わず、目標の進路にふさわしい外国語の技能向上を推進する。
		②進路実現に向け、生徒の英検・TEAP・IELTS・仏検・DELF等の４技能スコアのバランスよい向上を図る。
	達成方法	①ICTを活用する。教科書本文の解説、英文法や英語構文の分析・解説をビジュアル的にわかりやすく行う。
		②中学生はNew Treasureのデジタル教科書、高校生はスタディサプリEnglishを活用し自宅学習時間を確保する。
		③知識・技能の習得と、表現力の習熟を両輪とし、４技能を総合したタスクに取り組む。
		④早朝・放課後・長期休業の補習を積極的に開講する。大学受験に向けた検定対応に教科全体で取り組む。
項目3 （教科としての他の取組）	目標	①カリキュラム内容を精査・整理し、6カ年を通じた指導内容や指導方法について必要に応じて改善を行う。
		②教科内の活動や授業方法について、常に改善・改革の視点を持ち点検を続ける。役割分担に基づき業務を遂行する。
		③第二外国語としてのフランス語を含め、複言語教育の普及を促進する。
	達成方法	①NES教員と日本人教員の協力を進め、コミュニケーションを密にする。
		②互いの授業を参観し、意見交換する。
		③他教科の教員と連携を深める。
		④海外提携校との連携を深める。留学帰国生徒や編入生徒を積極的に支援する。
		⑤フランス語に加え、他の外国語についても生徒に学習機会を提供し、その学習を支援する。

技術家庭科　2023年度重点目標		
項目1	目標	自分の生きる目標に向かって、自分の生活を進んでよりよいものにしていく力を付けられるようにする。
	達成方法	各自の生活に応じた方法を探究できるように、基礎的・基本的な知識や実技をしっかり定着させる。
		振り返りとしても活用できるように、実習が取り組みやすいような動画等の作成に取り組む。
項目2	目標	社会生活の中で、知識だけでなく生活力も兼ね備えた人物に育てる
	達成方法	学習の中で、自ら生活環境を整えることの大切さを知り、心身ともに健康が維持できるよう多くの実践の場を持たせる。
		学力は、知識のみでなく実践を伴ってこそ生かされることを、日々の生活の中で自ら気づき、理解できるように指導する。
項目3	目標	「目標に向かって最後まで諦めず努力する姿勢」を培える場面を多様に配置する。
	達成方法	実習・課題、検定等を通して、成功体験を重ね、最後まで諦めず努力し、やり遂げたときの達成感を体感させ、自らの行動に自信と誇りを持つことができるようにする。

情報科　2023年度重点目標		
項目1	目標	ICTを活用する授業の実践
	達成方法	・既存のロイロノート・スクールやmanaba、Google Workspace（旧G Suite）などのクラウドシステムを活用した授業を検討・実践する。
		・情報活用委員会と連携し、システムトラブルやアプリケーションのアップデートに対応しつつ、授業を円滑にすすめられるよう校内のICT環境の整備に努める。
		・動画や検定、オンラインの活用など、COVID-19対応で培った経験を活かした授業展開・評価を行う。
項目2	目標	生徒が積極的に参加する授業の実践
	達成方法	・オフィスソフトについて、基本的な操作方法の習得だけでなく、実践的に活用できるように、演習を中心にして、生徒が自ら学び考えて効率の良い操作方法を身につけるように促す。
		・ICTの知識習得だけでなく、問題意識を持ち主体的に考えて行動できるようにする。
		・オンラインの共有ツールを活用し、さまざまな活動に活かす。
項目3	目標	社会の変化や最新のICT技術に対応する
	達成方法	・最新のICT技術の動向を常に注視し、外部研修会や展示会等に積極的に参加し教員間での情報共有に努める。それらを授業に還元できるよう努める。
		・生成系AI等、最新の技術をどう授業に取り入れるか、ルール作りなども視野に入れて検討する。
		・大学入学共通テストや各大学の入試動向に注目する。